

日本労働年鑑 第52集 1982年版  
The Labour Year Book of Japan 1982

第二部 労働運動

XIII 政治的大衆行動と平和運動

2 原水爆禁止運動

原水爆禁止一九八〇年世界大会

八〇年の原水爆禁止世界大会は、第二次国連軍縮特別総会を二年後にひかえ、米ソの核軍拡競争にどう歯止めをかけるか、被爆三五周年を一つの区切りとして、被爆者援護法をどう実現させるか等の課題をかかげて、八月二日から九日まで、東京の国際会議(二・三日)、広島大会(五・六日)、長崎のつどい(九日)という日程でひらかれた。

今回の世界大会は、七七年大会以来四回目の統一大会となった。大会準備委員会には、日本原水協、原水禁国民会議、総評、中立労連、新産別、地婦連、日青協、日本被団協等が結集し(六月二八日発足)、準備委員会は四つの議題と二つの討議課題を提起した。

四つの議題。(1)核兵器の完全禁止のために——核兵器の使用禁止協定、非核三原則、非核武装地帯実現のために、第二回国連軍縮総会にむけて、何をなすべきか、(2)核戦争の危機、核軍拡競争の実態について——それをくいとめ逆転させるために、何をなすべきか、(3)被爆者援護法実現のために——被爆者援護法を実現し、これ以上被爆者をつくらないために、何をなすべきか。二つの討議課題。(1)軍拡競争、軍縮の課題と発展途上諸国の開発をめぐる——新国際経済秩序をめぐる諸問題、(2)原子力開発と核拡散の諸問題をめぐって。

国際会議には、海外から一二国際組織、二五カ国、九九人が参加、昨年、一昨年を大きく上回った。その顔ぶれも幅広さを増し、従来の国際的平和擁護組織や各国の平和団体の代表にくわえて、中性子爆弾に反対しているオランダの市民グループ、アメリカの核兵器持ちこみに反対して「非核憲法」を成立させたパラオの住民代表などが新たにくわわった。国際会議では、大会の議題・討議課題についてそれぞれ分科会・フォーラムが持たれ、「東京宣言」が採択された。この宣言は、八二年の第二次国連軍縮特別総会が全面的な軍縮のため具体的計画を策定しそれを確実に実践する強固な基盤を確立すべきだと要望。加えて原水禁活動の具体的行動として、(1)太平洋、インド洋などに非核武装地帯の確定等を諸国政府にはたらきかける、(2)非核三原則を国際的連帯のなかで推進する、(3)核兵器の使用を非合法化する国際条約をつくる措置をとる、(4)核兵器およびその運搬手段の研究・開発・配備にたいするモラトリアムに即時賛同すべきこと、(5)南アフリカとイスラエルにたいする諸国政府の核協力の停止要求、(6)核実験完全禁止の国際条約の締結と遵守、(7)核戦争および世界各地のヒバクシャの悲惨な実態を全世界の人びとに知らせる、(8)日本での被爆者援護法の実現と、世界のヒバクシャにたいする諸国政府の援護の強化——などの具体的行動がきめられた。また宣言は、原子力開発の軍事転用について反対活動を強めるとし、とくに、北マリアナ住民の核廃棄物の海洋投棄反対を支持する態度を明らかにした。

五日の広島大会には、一万七〇〇〇人(主催者調べ、以下同じ)が参加。大会は折り鶴平和行進

と折り鶴平和行進結集集会以開幕し、六日には、課題別集会和全体集会在ひらかれた。全体集会上には、六国際組織二六カ国九二人の海外代表をはじめ、全国各地から一万三五〇〇人の代表が参加し、「国家補償の精神にもとづく援護法を制定することは、再び核兵器を使わないあかしだ」として、「原爆被爆者援護法制定を求める特別決議」、核兵器完全禁止と被爆者援護のための五項目の緊急課題をもちこんだ「ヒロシマ・アピール」を採択した。また、関連行事として「被爆三五周年原爆死没者追悼法会」、「第七回八・六全国高校生集会」が持たれた。

つづいて九日には「長崎のつどい」がひらかれ、一三カ国六七人の海外代表をふくめ、全国から四〇〇〇人が参加。主催者を代表して新村猛氏は「ことしの世界大会は、外には国際緊張の高まりと軍備拡張競争、内には被爆者援護法制定がヤマ場を迎えるなかで開かれ、パラオをはじめ太平洋諸島の人々や非同盟中立国との連帯の輪を広げることができた」とあいさつ、このあと、「長崎の訴え」を採択して、世界大会の全日程を終了した。

なお、世界大会と併行して、原水禁国民会議は、八月四日、「被爆三五周年原水爆禁止広島大会」（一万人が参加）、八日・九日「長崎大会」（九日の閉会式には八〇〇〇人が参加）および一八日から三日間「沖縄大会」（本土各地からの代表三〇〇人をふくむ一〇〇〇人が参加）を開催した。一方、日本原水協は、世界大会の日程の前後に、「原水爆禁止運動前進のための」広島集会（七〇〇〇人）を七日に、長崎集会（一〇〇〇人）を八日に開催した。原水協は、七七年の「統一」以降、統一大会への参加を原則とし、独自集会在ひらいてはいなかったが、今年、独自集会有持った。なお、核禁会議は、世界大会への参加を見あわせ、八月一日「核禁会議九州ブロック集会」、三日「核禁会議広島全国集会」（一〇〇〇人）を開催した。

#### 【ヒロシマ・アピール（一部省略）】

ここヒロシマのこの大会に結集したわたしたちは、原水爆禁止一九八〇年世界大会の東京宣言を心から支持し、その実現のために以下の課題をふくめて、これからの運動を強力に進めることを誓います。

一、被爆三十五周年にあたり、多くの被爆者の死を深くいたむとともに、被爆とその後遺の実相を広く日本国民ならびに全世界の人びとに普及し、ノーモア・ヒバクシャを強く訴えます。

二、国家補償の精神にもとづく「原爆被爆者援護法」を制定させ、また世界中のヒバクシャに対する援護を進めるよう諸国政府に働きかけます。

三、核基地と軍事基地の撤去、非核武装地帯の設置、非核三原則など非核政策の立法化をはかります。

四、核兵器廃絶をめざして、核兵器使用禁止、全面禁止などの国際条約の実現をはかります。

五、一九八二年の第二回国連軍縮特別総会に向けて、国際連帯行動を強化します。

これらの緊急課題の実現に、いますぐとりかかりましょう。

全世界のヒバクシャは団結しましょう。

全世界の人びとは、英知と力を結集しましょう。

一九八〇年八月六日

原水爆禁止一九八〇年世界大会・広島

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1982年版(第52集)【目次】 次のページ→ ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---